

芸術科（書道）学習指導案

- | | |
|-----------|--------------------|
| 1 履修単位数 | 2 単位 |
| 2 実施日時 | 令和7年10月21日(火) 第3時限 |
| 3 学 級 | 102・3HR (29名) |
| 4 使用教科書 | 書道I (東京書籍) |
| 5 単元(題材)名 | 漢字の書 行書(風信帖) |
| 6 単元設定の理由 | |

(1) 生徒観

本講座は、1年2・3組の選択生29名である。何事にも真面目に粘り強く取り組むことができ、明るく前向きな生徒が多い。書道入門期においては、その意義や重要性を理解させるため、楷書体の「臨書」に焦点を当て指導しており、さまざまな書風を持つ古典作品を臨書することで表現の幅を身につけ、臨書の楽しさが実感できるよう工夫してきた。生徒からは「各作品の特徴を表現するのは難しいけれど、色々な筆遣いや表現方法があって面白い。」などの声が聞かれ、書写から書道への発展を少なからず遂げていることを実感している。

(2) 教材観

本教材は、日本を代表する能書「三筆」の一人として知られる空海の書である。遣唐使として仏法を学んだ最澄に宛てた手紙で、その書きぶりは自信とエネルギーあふれる多彩な表現を見ることができる。生徒も中学校までに真言宗の開祖として学習しており、また、四国八十八カ所のある徳島では誰もが知る馴染みのある歴史人物である。その人物が、仏法だけでなく幅広い書文化をも吸収し、日本の書の礎を築いたことに触れ、関心を持たせたい。また、教科書には行草書の肉筆として原寸で全文が掲載されているため、見やすく見応えのあるものとなっている。行書の美しさや表現効果を味わい、その用筆法を学ぶには行書の初心者である生徒にとっても適した教材であるといえる。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を理解し、古典に基づく基本的な用筆・運筆を身につけられるよう指導する。また、古典の特徴を理解し、臨書した作品や姿勢をペアで鑑賞・批評することで、自分の作品を他者による新たな視点で見つめ、そこでの気づきを作品制作に生かす。

7 単元の目標

- (1) 古典の時代背景、書風、表現効果について理解する。(知識及び技能)
- (2) 古典の用筆・運筆、字形、全体の構成と意図に基づいた表現について構想する。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 古典の良さや美しさを感じ、作品や書の意味や価値を考えながら、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(学びに向かう力、人間性等)

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①古典の時代背景・書風・表現効果を理解している。 ②行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。	①古典の基本的な用筆を理解し、書風や特徴を捉え、表現に生かしている。 ②行書の古典の書体や書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。	①主体的に古典の良さや美しさを感じとろうとしている。 ②作品をよく観察し、作品の良い点や改善点を見出し、能動的に活動しようとしている。

